



vol.60

2015年  
11月27日  
発行

日本山岳会

# 「高尾の森」



—小下沢風景林の森づくり活動—



今年めでたく15周年を迎えることができました。

これも協力団体また法人会員の皆さんのお力添えいただいたおかげであります。

また会員一人一人が自主的に汗を流してきた結果でもあります。

今後は当面20周年に向かい汗に加え知恵を出して新たな取り組みに挑戦していきます。

<http://JACtakao.net>

# 15周年記念パーティを終えて



高尾の森づくりの会の15周年記念パーティーは、10月3日（土）に高尾山のピアマウントで開催致しました。参加者はご来賓（日本山岳会、林野庁次長、国土緑化推進機構専務理事、京王電鉄 O会長、高尾登山鉄道社長、ほか）と会員とで100名を越え、天候にも恵まれ、楽しいひと時を過ごしました。

思えば、昨年12月に15周年準備委員会を立ち上げ、開催期日、場所、招待客、参加者人数、会費、記念品等について、10名程のメンバーで検討し、樽酒、枡、記念品等を手配し、名札、台座、横断幕などを作成しました。そして物品の運搬、会場整備、受付、会計まで関係者が役割を分担し、パーティを無事終えることが出来ました。ここに関係者各位に謝意を表します。

なお、15周年を記念して、刺繍ワッペンを会員一人に一個贈ることになりましたので、本封筒に同封しました。ザック、カバン等に取付けお使い下さい。

石井倫行



## 目次

15周年記念パーティーを終えて .....02  
 小下沢NOTE .....03  
 補助作業の今後について .....05  
 私の提案 .....06  
 小下沢の森は一人前に成長 .....07  
 森林が水力発電を支える! .....08

緑が増えガスが気にならなくなりました...09  
 緑豊かな森づくりのお手伝いを .....10  
 チェーンソーによる  
 大径木伐採造材作業の特別教育 .....10  
 森の研修会 .....11  
 事務局だより .....12





下草刈り作業を終えて……

### 共存する動物・植物の事も知識を深める必要 A班 早川憲也

高尾の森では5月～9月が下草刈りですが、その中で5月～7月は春の花や山菜、果実も沢山実り、刈ることをためらう場面があります。タラの木は切らずに残せば来春タラの芽が出るし、ラズベリーは刈るより食べるのに夢中に。



畑ではこれらは栽培植物となり、雑草を駆除して良質の収穫物を得るところですが、森の中ではおいしい(美しい)ものにはトゲがあると云わんばかりに、山作業の邪魔をします。

特に12Aの植栽地は日当たりが良いのでイバラの生長が早く、5月に刈ったのに8月には2m程(毎日2cm位成長する計算)にもなり、イバラで覆われた植栽は日照を遮られ、著しく成長が遅れていました。

また、イバラが覆いかぶさった植栽の周囲には、下草も生えずいつまでも土が露出しているため、イバラのトンネルは小動物の隠れ家としてはうってつけなのが、あちこちに獣道があり、そのため急斜面では植栽を巻き込んで崩れ落ちている所もあり、植える側としては心が痛みます。

高尾の森づくりは木を主体に活動が考えられていますが、共存する動物・植物の事も知識を深め、地形に適した理想の下草や、動物の行動特性等から獣害の予防等にも対処しなければ、効果的な森林育成はできないと改めて認識しました。

作業者エゴかも知れませんが、下草の発芽時期・成長速度・増殖手段等の知識を蓄え、分布と成長をコントロールし、8月～9月の辛い下草刈りの負担を軽減する方法を考えて見たいと感じる次第です。

9月定例作業



(A班)

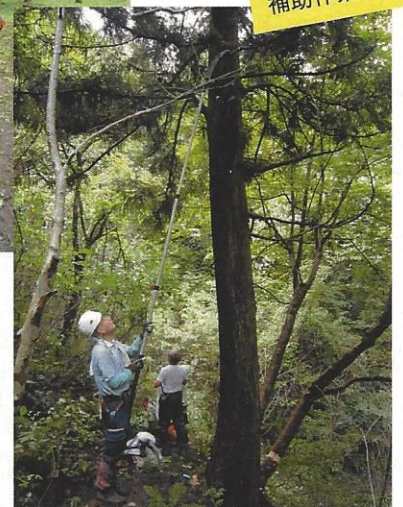


(B班)

チェーンノ研修会



補助作業



皆川リーダーを中心にして75回を超える研修会。今回も新たに挑戦する若者(?)に機械の構造を説明する白沢さん。伐倒方法も大事だが、機械の構造も覚え名実ともに力を蓄えつつあります。あとは一人一人がいかに経験を積むかがカギとなることだろう。

10月定例作業



間伐作業を終えて……

## 多様で豊かな森の復元めざして

A班 日向一人

高尾の森づくりの会参加のきっかけは、会社の先輩からの「お前、木伐ったことあるか？」の一言でした。当然、木など伐ったことはなく、興味本位で参加したのが始まりでした。

初めての木こり経験は新鮮で楽しいものでした。木にロープを掛け、伐倒方向を見定め、ノコで切り口を入れていく。見定めた通りに木が倒れれば超爽快、運悪く倒れきらないときでも皆でロープを引いて木を倒す、この一体感もまたたまりませんでした。そして、いい汗をかいた後のビールもこれまた最高においしい。最初の間伐でこうした楽しさを体験したことで、その後本会に継続して参加することになったといっても言い過ぎではありません。

その時から、早いもので5年を経過しました。この間、諸先輩から様々なことを教えていただきました。ロープの結び方・掛け方、のこぎりの使い方、倒す方角の見極め、伐倒後の木の処理方法。また安全作業の基本は道具の手入れであることなど。経験を積み、多少は木を伐ることの段取りなどわかってきたようにも思いますが、まだまだ先輩の助けが必要だというのが正直なところでした。

いつまでも先輩に頼るのではなく、自分で作業を進められるようにならないとなあ、と思っていたところに、今回サブリーダーのお話をいただき、やらせていただくことになりました。

この機会に、木を伐るだけでなく、間伐木の選定方法など間伐技術を習得し「多様で豊かな森の復元」にお役に立てるよう、安全第一で、楽しく作業を続けていきたいと思ひます。



(D班)



(伐採作業に励むY女史)



(疲れを癒しました)

11月定例作業

(梅林紅葉)



(山見 狐塚峠)

# 補助作業の今後について

毎月第4土曜日に行っている補助作業について、  
今年の実施状況を報告し、併せて今後の取り組み方・  
進め方について述べてみたいと思います。

リーダー 白井聡一



道作りに補助作業も参加

## 1 今年の活動

補助作業は1～3月の積雪、路面凍結期を除き、樹種や生存の判別しやすい植物の活動期に実施しています。下刈り期を脱した植栽地でツル伐りや除伐を行っ



道の補修現場に杭材など終結

ています。ここでは苗木は下草の背丈を超えて成長していますが、ツル性植物に絡まれたり、苗木よりも成長の早い灌木、林縁の樹木に日照を遮られているところが見受けられます。これらの障害を除去するために今年も活動を行いました。参加人員は最近では毎回10名ほどですが、全員同じ場所で仕事ができるのでまとまった力になり、成果が目に見えて顕著です。多くは作業リーダー、サブリーダー格の経験者ばかりなので、現場に行けばここで何をすべきかを自分で考えて作業を進めて貰えます。放置しておいたら枯死したり、醜い姿の樹形になったりする成長期の苗木の数を多くを救済しましたが、中には救済できないものもありました。

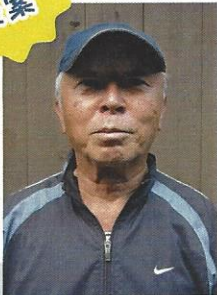
## 2 今後の進め方

この作業の難しいところは、順調に成長している植栽地の中で成長を妨げられている問題個所を探し出すことです。そのために頻りに植栽地の中を見回わる必要があります。ツル性植物の繁茂しやすいところや、林縁の樹木の成長の早いところを常にマークする必要があります。これまで2年以上活動を続けてきて問題個所が大分判ってきました。一度やれば数年は大丈夫なところ、2,3年に1回は手入れが必要などところなどの補助作業マップを作りつつあります。本来下刈り作業と同じくこのような保育管理作業も各班の作業として割り当てられています。しかし、毎年植樹を行って来た結果、担当植栽地が増え下刈りだけで手いっぱいという状況が続いてきました。新しい植栽地が少なくなってこれからは定例作業としてこれまで植えた苗木をもう少しきめ細かく手入れができる状況になってきました。各班に補助作業マップを提供できるように今しばらくこのような活動を続けたいと思っています。



祝!!  
15周年





# これからの班作業についての意見

● 笹原 洋  
2004年から参加しています。

## 間伐作業

当時は林齢35年ほどで手鋸での伐倒も可能でした。細いのは直径10 cmで樹高も10m位のものでした。

現在は、林齢45～50年となり成長が早く胸高直径20 cm超で、元口は30 cmで手鋸での伐倒はきつく危険な状態です。また枝張りも強く掛木が必至です。

10年近くかかって初回の間伐がほぼ終わりこれから次の間伐の時期になってきましたが、木が大きくなり手鋸では作業がはかどりません。チェーンソーで作業するにしても作業者がかざられ安全上問題です。

## 補助作業 4～12月の第四土曜日

植栽地の活着調査されている白井さんの発案で2012年から植栽地及び周辺林の整理を行っています。毎回10名ほどで下刈り不足・ツル伐り・除伐・周辺木の枝打ちなどを行っています。

## 地拵えと植樹

ここ2～3年の植樹地はスギ・ヒノキを植林できなかった急傾斜地や土がつかないガレ場になっています。

これからの下刈り、ツル伐りに危険が伴います。林野庁も材価低迷で大径木を狙い100年以上となり数十年は択伐もないのではないかと思います。新たな植樹地は得られないと思います。

## 補助作業に参加して

今年3～4回参加してみました。主に2006年以前の植栽地で現在3、4年下草刈りに入っていない放置林。

02、04年の植栽地を大刈りしました。主に二丁差、高枝きり、チェーンソー1、2台。特に目立つのが植栽地周辺のスギ・ヒノキと山桑その他の雑木の成長で植栽木が被圧されている状態です。

高木は10 mを超え、下枝・幹別れ・株立ちも多く林内を歩き辛くしています。また形質が悪く枝打ち・幹の選択・斜立伐倒など必要と思われます。

## 落葉広葉樹林の保育

初年度の植栽から既に15年経過し2008年以前の植栽地はほとんど手入れがされていません。

われわれが人工的に植栽した落葉広葉樹林を手入れしないのは問題ではないでしょうか？

植栽樹種は、低木・中高木・高木また陽樹・陰樹など多種にわたります。一様な手入れ法はないと思いますが高尾の森で検討し、試行錯誤し実施したいものです。風景林の保育は何処にも参考書は無いでしょう。

## 植栽地の保育の班作業

間伐・枝打ち・剪定の必要な植栽木は多数あります。

植栽は2011年を含めると約10 haで15千本の植樹です。

これからの5年間でこれを保育したらどうでしょうか。

植栽地の保育・手入れの作業標準をリーダー会等で検討し、班作業に取り入れたらどうでしょうか。

十分な作業量があると思います。

新規な作業としては、枝打ち作業、巻き枯らし作業など。

## 年間の作業計画

10～3月	スギ・ヒノキのチェーンソーによる間伐 植栽木の間伐・枝打ち
4～5月	植栽地の大刈り・ツル切り
6～9月	植栽地の下草刈り

以上よろしく検討願います。



# 小下沢の森は一人前の森に成長している

植生調査班は毎月第一水曜日に小下沢、近隣の山などの調査、特にフィールドでは、間伐、植樹することによる植生の変化、森林の形成過程を観察している。今回は、植樹し5年以上経過した09、10年度植栽地におけるコドラートの植樹木、自生木及び隣接の自然推移区の調査結果を報告し、今後の森づくりの活動のあり方を考える一助としたい。

植生調査班 千谷恵子

[表1] 植樹木 (4樹種16本が生育)

10A 植樹地	ナツツバキ	3
	ヤマザクラ	2, 1, 1, 1, 1
	ヤマボウシ	2, 2, 2, 2, 1, 1, 1, 1
	ミズキ	1, 1
(間伐跡植樹後6年、下刈継続区)	<b>自生木 (35樹種、155本が生育)</b>	
	カラスザンショウ	10, 10
	クマシデ	8
	ミズキ	6, 6, 0 (7本)
	ガマズミ	1, 0
	キブシ	1, 0 (7本)
	ヤマウルシ	1, 0 (3本)
	ヤマザクラ	0 (3本)
	クマノミズキ	0 (4本)
	ヌルデ	0 (29本)
	このほか1m未満 (0で表示) では、アカシデ、アサダ、イヌエンジュ、ウワミズザクラ、ケヤキ、コナラ、アカマツなど26樹種73本の幼樹が生育	

[表2] 造林木保残木 (ヒノキ4本保残)

10A 隣接の 自然 推移区	ヒノキ	20, 20, 20, 18
	<b>植樹木 (慈慶学園記念植樹1本)</b>	
(間伐後自然推移、非植樹、下刈なし)	トチノキ	2
	<b>自生木 (35樹種、128本が生育)</b>	
	イイギリ	20, 2, 2, 2
	アオハダ	8, 8, 6, 2, 1
	アカシデ	8, 4, 3, 3, 2, 1, 1
	イタヤカエデ	7
	ウワミズザクラ	7, 6, 2, 1, 0
	ヤマザクラ	6, 4, 3, 3, 2, 0
	ヤマウルシ	5, 1, 1, 1, 1
	アカメガシワ	4, 3, 0
	イロハモミジ	4, 2, 1, 0 (5本)
	ミズキ	3, 3, 2, 1, 1, 0, 0
	コナラ	3, 3, 2, 1
	マルバアオダモ	3, 3, 2, 2, 0
	イヌシデ	3, 2, 2, 1, 0, 0
	ハリギリ	3, 1, 0, 0
	ツノハシバミ	3, 2, 0
	エンコウカエデ	2, 2, 1, 1, 0
	オトコヨウゾメ	2
	クマシデ	2, 1, 1, 1, 0, 0
	ケヤキ	2, 0
	ウラジロノキ	2
	コバノガマズミ	2
	イヌエンジュ	2, 0
	ガマズミ	2, 2, 2, 2, 1
	クマノミズキ	2, 2, 1, 1, 1
	キブシ	2, 2
フサザクラ	2	
アカマツ	1	
このほか1m未満の樹種で、カヤ、モミ、ヤマグワ、ハクウンボクなど8樹種18本の幼樹が生育		

[表3] 造林木保残木 (ヒノキ1本)

09A 植樹地	ヒノキ	30
	<b>植樹木 (2樹種5本が生育)</b>	
(間伐跡植樹後7年、下刈継続区)	ハリギリ	4, 1, 1
	ハウチワカエデ	3, 2
	<b>自生木 (20樹種62本が生育)</b>	
	イタヤカエデ	6
	クマシデ	5, 2
	ホオノキ	3
	キブシ	3, 3, 2, 2
	クマノミズキ	3, 2
	アカメガシワ	3, 2, 2
	コナラ	2
	ハクウンボク	2
	その他12樹種、47本	

[表4] 造林木保残木 (ヒノキ1本)

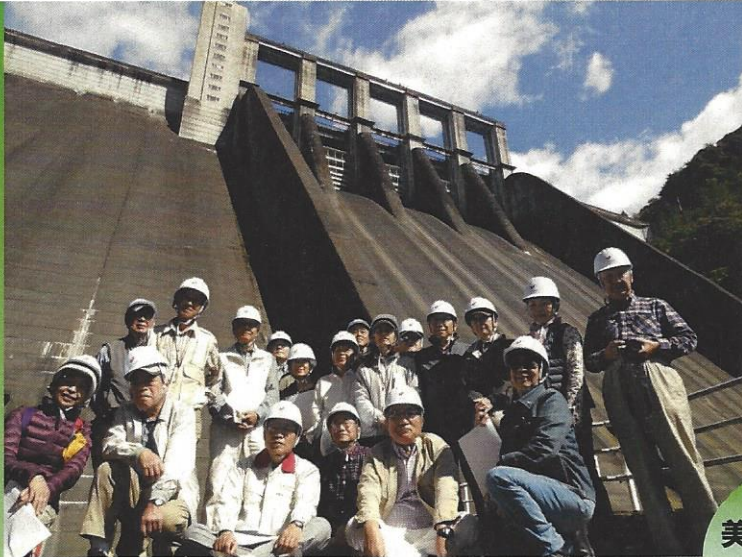
09B 植樹地	ヒノキ	20
	<b>植樹木 (4樹種10本が生育)</b>	
(間伐跡植樹後7年、下刈継続区)	オニグルミ	5, 4, 2, 2
	ヤマグリ	2, 2, 2
	ケンボナシ	2
	ケヤキ	2, 2
	<b>自生木 (16樹種49本が生育)</b>	
	ミズキ	10, 4, 4, 3, 3
	アカメガシワ	6, 4
	ヌルデ	5, 4, 2, 2, 2
	ヤマグリ	6, 6, 4
	ウワミズザクラ	4, 4, 2
	キブシ	4, 2
	ヤマザクラ	7, 4
その他9樹種、27本		

[表5] 造林木保残木 (2本)

09B 隣接の 自然 推移区	ヒノキ	20
	スギ	30
(間伐後自然推移、下刈なし)	<b>自生木 (11樹種22本が生育)</b>	
	ミズキ	10, 6, 6, 5, 4
	エゴノキ	6
	ヌルデ	5
	ヤマグワ	4, 4, 4, 3, 2, 0
	キブシ	4, 4
	ヤマザクラ	4
	ミツバウツギ	3, 1
	ウワミズザクラ	3
	アオハダ	0
	ハクウンボク	0
	オオバアサガラ	0

【注】表1・2は、2015.9.2調査 表3・4・5は、2015.10.7調査 (コドラート面積はすべて100平方メートル、数字は1本ごとの樹高メートル、1m以下の幼樹は0表示でカウント)

調査の結果を考察すると、植栽地は植樹木を含む多種の自生木が競い合い、変化に富む広葉樹林を形成していくものと推測できる。自然推移区は07年の強度間伐跡地を放置した区域であるが、すでに立派な森林になっている。私たちの活動は、植樹のみを大事にし手入れをするのではなく山全体を静かに見守っていくことではないだろうか。



第11回  
美林見学会  
in  
天竜

## 森林が水力発電を支える！

第11回美林見学会は、森と川の関わりについて、約130年前に暴れ天竜の洪水対策として現在の浜松市に生誕された金原明善翁のお手植えの、浜松市天竜区に所在する国有林（瀬尻展示林）の見学と天竜林業の学習をメインに、10月11日～13日までの、2泊3日の行程で河西代表、龍事務局長他総員19名が参加して実施した。

初日の瀬尻展示林見学は、森林を天竜森林管理署が管轄しており、川添署長の案内を頂いた。同展示林は、杉林で、約3haですが、最も大きいもので、胸高直径90cm余、樹高が45m級と素晴らしい成長と、そして間伐などの手入れが行き届き、林床には様々な灌木類が生育し、多様で豊かな森林が形成され、沢沿いには清水が滾々と湧き出ており、水源かん養と土砂流出防止の機能をいかんなく発揮し、秋葉ダムに注いでいる。

2日目は、天竜林業を先祖代々で守り引き継いで、天竜川流域の林業に取り組んでおられる林業家森下廣隆家の美林を見学、そして森下氏による森の講座を受講した。森下家は、流域に170haの山林を所有され、跡継ぎの広樹氏も一緒に所有林の案内を頂いた。

育林は間伐が最も重要ですが、森下家代々の間伐理念として、50年生までは10年毎の定性間伐を主体に、そしてその後は必要に応じて定性間伐を継続されているとのこと。作業の効率性を図るために林業機械の導入は不可欠と、林内作業道の整備に先駆的に取り組まれ、現在では100m/haを実現しているとのこと。（全国平均は10m台/ha）そしてその成果を、ハーベスタで伐採・造材を実演見学、その時間2～3分で終了。機械力のすごさを目の当たりにした。

3日目は、日本屈指の佐久間発電所と同ダムを大高、長谷部両所長代理の案内で見学した。ダムは暴れ天竜で、最も峡谷の旧佐久間町に、戦後の復興期で昭和30年頃に従来工法では10年はかかると言われた工期を米国の建設機材を導入し、わずか3年余りで建設された。

同発電所は、出力35万kwだが、半分は名古屋方面に、そして半分は東京方面に国の重要電源として、60年余不斷に供給し続けている。加えて、この発電機は、50・60サイクル仕様で、他発電所の事故時等緊急時に即応できる優れもの。

水力発電は、再生可能エネルギーの中でも安定的に供給でき、しかも貴重な純国産エネルギーであり、この供給の継続は上流域からの水量とともに良質な水の流入が重要であるが、ダム上流域の森林の保全を図ることで、大雨が降っても流入量の平準化と山からの濁水や土砂の流入が軽減できる。つまり、森が発電所を支えているといっても過言ではない。またその森を支えているのは流域の林家の方々である。会では今回見学の成果を糧に、高尾の森づくりに活かしたい。

今回の見学会にご協力いただきました、天竜森林管理署様、森下廣隆家の方々、電源開発佐久間電力所の皆様には、この紙面をお借りして心よりお礼を申し上げます。

馬場隆博





## 第15回 三宅島緑化再生プロジェクト報告



Takao

### 緑が増え火山ガスが 気にならなくなりました!

小木曾裕子

Miyake Is

2008年5月に三宅島でのプロジェクトが始まった頃は、作業をしていても火山ガスが気になったが、15回目を迎え漸く全く気にならなくなり、ガスの発生状況を知らせる島内アナウンスもなくなっていた。今回は10月23日から25日にかけて総勢13名が全員同じ場所で作業を行った。

一日目はレストハウス跡地下の広大な一面ススキの斜面にヒサカキ、ヤブツバキ、タブノキを合計1,000本植樹した。風よけとなるススキの株の合間で日当たりの良い場所を探しつつ一人100本近くをひたすら植える。一日仕事と言われたが午前中に8割方終了。昼食を取り小休止後、午後の

作業を開始し、1時半には早々に全部の苗を植え終えた。

二日目は島民ボランティアの若者も加わり甌の穴の草刈りと大島桜を植樹した。甌の火口底一面を覆いつくした雑草は刈払機がフル稼働して処理し、刈り取った草もみるみる山積みとなった。想定外だったのは6年前に甌の穴の真竹やアズマネザサを処理した後、斜面や遊歩道に植えたあじさいが信じられないほど成長していたことだ。当初は火口底から見上げたところにあじさいの花が咲き誇る光景を描いていたのだが、温暖な島のあじさいは葉っぱも顔と同じ位大きく茎も太く3~4mの木立と化していた。折角植えたあじさいではあるが、惜しみなくバツサリ鋸で切り倒しすっきりしたところで作業を終えた。今回も作業に協力していただいている多くの島の皆さんに見送られ島を後にした。



祝!!  
15周年



会員紹介シリーズ③  
加藤信夫

鍋の持ち方が  
堂に入ってます!  
ただ者では  
ありませんな(編)



緑豊かな森づくりのお手伝いを

思い起こせば2010年11月13日(土)朝、高尾駅で山仲間の知人を通じて渡辺美夫さんと会いその日高尾の森づくりの会に参加、この秋で5年生となりました。

そんな訳で三宅島プロジェクト(渡辺リーダー)も今年で9回目の参加となりました。

はじめは作業初歩から石井リーダーのもと、2年目は寺田リーダー、3年目で茂出木リーダー親子班及び現在は先輩女性の皆様の協力でキッチン担当をしています。

生まれは東京葛飾水元という田畑、沼地の広がる地域で育ち現在は千葉県市川市に所帯を構えている。

42年間勤めたホテル飲食からリタイヤ、以前より山に憧れ60才で東京山岳連盟ハイキングスクールに初歩から1年間学び、その後山岳クラブで四季を通して登山でしごかれました。おかげで5ヶ所の海外トレッキング、日本百名山もあと数ヶ所、楽しみに残して達成することができました。

今年の秋は8度目の槍ヶ岳と紅葉の飯豊連邦の縦走、そして趣味として山でのスケッチした画を自己流で油絵として描いています。

ついでに58才から始めたスクーバダイビング。八丈島をベースに海外ダイビングも10ヶ国と海中でも熱帯魚と遊んでいます。

また第一水曜日千谷リーダーの植生調査班で山野草や樹々の名前を教えていただき勉強中です。今後も良き仲間と安全な作業と一緒に汗をかいて緑豊かな森づくりのお手伝いが出来れば嬉しい限りです。

チェーンソーによる大径木等伐木造材作業の特別教育を実施!

馬場隆博



2日目の技術実習において、チェーンソーの構造を説明。

当会の活動でチェーンソー作業を行うものは、会の「機械作業安全指針」に基づき、「労働安全衛生規則第36条第8号の2の特別教育」又はこれとほぼ同等程度のカリキュラムの教育を受けた者としています。この後者の教育が今回実施した特別教育であります。

会では昨年に本制度を導入し、今回第2回となり、8月1日、2日の2日間にわたり、前記の規則に定める所定の特別教育に準じて特別教育を実施し、6人が受講しました。

講師には元林業・木材製造業労働災害防止協会主任安全管理士で当会会員でもある松隈茂先生にお願いし、そして講習時のサポートを、会の機械作業班に依頼して実施しました。

その概要は以下の通り。

記

1. 日時 平成27年8月1日(土)～2日
2. 場所 小下沢国有林
3. 受講者 6人
4. 講師 松隈茂先生(元林業・木材製造業労働災害防止協会主任安全管理士)
5. テキスト 林業・木材製造業労働防止協会発行のテキストを使用

以上



祝!!  
15周年





## 森の研修会

平成27年度 第2回 森の研修会

「新リーダー対象に伐採技術の向上と安全作業のルールを学ぶ」

平成27年9月5日(土)

馬場隆博

平成27年9月5日(土) 穏やかな天候の下、総勢20人が参加して、小下沢国有林219林班は小班(林齢50年の杉人工林)で間伐作業の研修を実施した。

今回の狙いは今年5月の定例総会で、作業班のリーダー、副リーダー入れ替わったことから、今月から始まる間伐作業を前に、安全確保と伐採技術の向上を図る必要性から、新作業班リーダー、副リーダーを主な対象とし、研修を行った。



ロープと滑車を利用して、安全な伐採方法を指導している機械作業班の高橋会員



研修では、冒頭元林災防協会の主任安全管理士の松隈講師から、「基本ルールを守って毎日安全作業」の安全パンフを使い、伐木作業の安全と掛かり木処理作業の安全について講義。次に、機械作業班から、ロープ等の使用、スローラインの使用技術と効果について説明した。そして、具体的な伐採作業を機械作業班の白沢リーダーが模範演技し、加えて同切株を使って、伐倒方向、受け口、楔を使っての追い口切、つるの残し方について丁寧に分かり易く解説した。

午後は、機械作業班メンバーの指導により、3班に分けて、通常使用する間伐用ノコを使用しての、低・中層の劣勢木を対象に伐採し、伐採木の掛かり木等の事象により午前中のロープ、滑車を使用する等事象に適応した適切な指導を行った。伐採後の残存木の幹距は4m~4.5m程度で相対幹距比では20%程度となり、劣勢木を伐採しただけでも、伐採(間伐)が適当であることを実感した。

参加者からは、「斜面での足場の確保とノコの入れ方、ロープの使用、結び方等様々なことが勉強になった。今後の間伐作業に活かしたい。」と言った感想が聞かれました。

次回研修は、**12月5日(土)**です。  
間伐した木で木工品を作ります!

### column

## 森の大欒に寄せて 横川信由

この植栽地内で、尤も太い木は大ケヤキではなからうか。  
ザリクボ沢上部の開けた斜面の岩を砕くかのように根を張り太い幹を天空に伸ばし  
移りゆく季節の彩を見せてくれる「大ケヤキ」。  
この大ケヤキ手前20mほどの左側にも太いケヤキがある。  
樹高13メートルの樹周を測ったが大ケヤキ同様4m10cmだった。  
同じ世代をこの森を見つめ育ってきた仲間の木であったのかと、親しさが募る想いであった。  
強い風が吹くと色づいた葉にまじって実は枝ごと木を離れて飛んでゆく。

ケヤキの実



# 事務局からのお知らせ

## 主な作業・行事記録

9/5(土) 森の研修会(伐採技術等)	18人
9/12(土) 定例作業(下刈・間伐)	81人
10/10(土) 定例作業(間伐)	79人
10/11~13 美林見学・天竜林業	のべ62人
10/23~25 三宅島緑化再生プロジェクト	のべ56人
11/14(土) 定例作業(間伐)	57人
11/20~23 気仙沼大島森林再生プロジェクト	のべ71人

## 今後の主な作業・行事スケジュール

11/28(土) 臨時作業(紅葉鑑賞会)
12/5(土) 森の研修会(木工)
12/12(土) 定例作業(間伐)
1/9(土) 定例作業(除間伐)
2/13(土) 定例作業(除間伐)
3/5(土) 森の研修会
3/12(土) 定例作業(除間伐)

毎週(木) 第3(土)  
ものづくり・  
小屋管理班作業日

第1(水) 生態調査班作業日

第3(日) 機械作業班作業日

第4(土) 下刈り補助作業日

### ● 集合場所・時間：高尾の森ベース9:30集合

車で来る方は、高尾駅北口京王路線バス停(甲州街道)からの相乗りに協力下さい。

### ● 参加連絡：事務局/龍久仁人あてご連絡下さい。

E-mail : ryu-kun@cablenet.ne.jp 電話 : 090-4373-1555 はがき : 〒332-0031 川口市青木1-21-7-402

### ● 体験参加を希望される方は、上記事務局あてに申し込んでください。(住所、氏名、電話、メールアドレス記載)

## 入会者紹介

8月以降、次の方が入会されました。淡路文恵

### イベントのご案内

#### 第2回 ラオス展示林造成プロジェクト・間伐ツアー

昨年に続き、ラオス大学と共同で熱帯雨緑林の間伐を行います。併せて大学生、村人に対し間伐設計、選木、チェーンソーによる伐木技術等の研修を実施します。

日 程 ● 2016年1月24日(日)~29日(金)

場 所 ● ラオス国ビエンチャン県バンビエン地区

集合解散場所 ● ビエンチャン・ワットタイ国際空港

費用概算 ● 10万円(航空賃、滞在費、食事代を含む)

参加募集 ● チェーンソー伐倒など技術指導のできる方を募集しています。参加ご希望の方は、12月10日までに事務局宛てお申し込みください。

## 住所、アドレス等の変更届出

転居などで変更があったときは、速やかに事務局宛てにご連絡下さい。事務局からの行事その他のお知らせはEメールで行ないますので、アドレスをお持ちの方は極力登録をお願いします。

## 森の研修会に参加しよう

12月5日(土)9:30ベース集合。テーマは**丸太木工品**の製作。間伐・伐採した木を、身近でより多く「木づかい」し、森林保全に貢献することを狙いに、参加者自ら手作りで製作します。初めての方歓迎。多くの方のご参加を期待しています。

## 入会を希望される方へ

会の趣旨に賛同していただける方は、どなたでも入会することが出来ます。入会を希望される方は、所定の入会申込書に記入して事務局宛てにお申し込みください。定例作業日に受付で直接ご提出いただいても結構です。

年会費は、一般3,000円、大学生1,000円、(下半期入会は半額)高校生以下無料です。年間500円のボランティア保険に加入していただきます。会費の振りこみ確認後、会員として登録されます。

会費・保険料の納入方法は、郵便振替をご利用下さい。

\*加入者名: 日本山岳会「高尾の森づくりの会」  
ニホンカクガイ 高尾ノリツクリノカイ

\*口座記号番号: 00160=3=0688239

銀行振込も受け付けています。

\*口座番号: ゆうちょ銀行

〇一九(ゼロイチク)店 当座 0688239

## 編集後記

60号は小下沢NOTEにページを割き、また15周年記念パーティを中心に編集いたしました。私も担当して早くも1年経ちました。今後「イベント」「プロジェクト」のみならず過去にとらわれない新たな取り組みにも挑戦していきたいと思っております。新たな会報誌をめざし皆さんの知恵をお借りしたいと思っております。忌憚のないご意見をお待ちしております。(松川)

## ●お詫びと訂正

59号(8月発行)で「フィールドスタディ「高尾の森」のなかで、雲取山ではなく、大岳山の間違いでした。お詫びして訂正します。

